

花ちゃん、オー君、モンタ博士のわくわくドキドキ冒険記2

国立市立国立第七小学校

平成27年1月26日 NO.78 (178)

花ちゃん 「モンタ博士、この前の冬芽について、続きの質問ですが、みんな、皮やサックなどをつけているのかな。何もつけないではだかのままの葉っぱが、むきだしになっている冬芽っていうのもあるんだよね。」



ムラサキシキブ (クマツツラ科)

モンタ博士 「そうだったね。アジサイなんかは、はだかんぼだったね。それから、右のムラサキシキブとこのを見てごらん。葉っぱのすじが見えるだろう。そのすじは葉脈といって、葉っぱの血管みたいなものさ。よく見ると、すじの近くにあってかそんな毛がいっぱい。」



タラノキ (ウコギ科)

オー君 「なーるほど。それなら、きっとあったかだね。あれ、これは、トゲだらけの冬芽だね。何だろう。」

花ちゃん 「ほんとだ。チクチクしていたそうですね。」

モンタ博士 「よく見つけたね。これは、タラノキさ。」

オー君 「え！タダノキ？」

花ちゃん 「ちがう、ちがう。タラノキよ。食べられるのよ。それはそれはおいしいんだから。」

モンタ博士 「春になるとね、芽ぶいてね、てんぷらにするとおいしんだよ。山でとれて食べられるものを山菜というけど、こいつはうまいね。ほんとだよ。」

オー君 「えっ！食べられるの。それなら、オー君にまかせてちょうだい。また五感を使って観察できるぞ。これは楽しみだ。ねえ、モンタ博士！春になったら、山菜を取りに行こうよ。」

モンタ博士「もちろんだよ。国立でも『ハケ』のあたりに行けば、いろいろあると思うよ。

フキノトウ、タラノキ、コゴミなんかがあるといいね。」

花ちゃん「よーし！わたし、フキノトウを一番で見つけるわ。まかせておいてね。」

オー君「うれしいな。楽しみだな。それで、山菜をしょうずにたくさんとるための『こつ』ってあるのかな。」

モンタ博士「あるよ。あるよ。かんたんだよ。どこになにがあるかを、しっかりと覚えておけばいいのさ。たとえば、フキノトウならあそこ、コゴミならあそこ、それから・・・おっといけない。あまりしゃべらないほうがいいね。」

花ちゃん「そうですね。どこに何があるかは、ひみつにしておきましょう。城山あたりに行けば、もっといろいろとあるかもしれませんね。」

オー君「ところで、ぼくたち、冬芽の話からずいぶんと脱線したみたいですね。」

モンタ博士「あ！ごめん。ごめん。それじゃ、お話をもとにもどしてと・・・。

ところで、この冬芽をさわってごらん。」

オー君「この冬芽は、何枚も皮をかぶっているよ。ちょっとてかてかと光ってるね。さわってみるか・・・。あれあれ！冬芽のまわりがべたべただ。」

花ちゃん「これは、何という木ですか。」

モンタ博士「これはトチノキサ。いろいろな冬芽があるけど、これだけは、まわりがべとべとしてい

るだろう。冬は寒さと同時に乾燥するよね。植物は水がなければ生きていけないけど、トチノキは水分

がにげないように『ねばねばバリアー』があるということさ。」

花ちゃん「こうやって見てみると、冬芽の形というのはいろいろあるんですね。どれも、みんな、寒さをのりこえる工夫をしているんですね。」

オー君「木だって木なりに、苦労しているんだね。ぼく、感心しちゃった。」

モンタ博士「そうさ。そのとおり。自然の世界は本当にうまくできているね。これからも寒いなんて言っていないで、元気に外に飛び出していろいろ発見しよう。」



トチノキ（トチノキ科）